

顎関節固定具「AGOキャップ」

- 【本学発明者】 栗田 賢一（歯学部 顎口腔外科学講座 教授）
小川 尊明（歯学部 顎口腔外科学講座 招へい教員）
- 【本学協力者】 小木 信美（歯学部 顎口腔外科学講座 准教授）
片山 良子（歯学部 顎口腔外科学講座 助教）

- 【関連特許情報】 『顎関節脱臼防止具』
学校法人愛知学院
特許第6168662号（平成29年7月7日登録）

本学は、顎関節脱臼を再発防止するための装着型デバイスを、旭ゴム化工(株)およびパルメディカル(株)と共同で開発した。

これまでにあった技術的課題

高齢化社会に伴い、顎の関節が外れて口が閉じられなくなる病気（顎関節脱臼）が高齢者を中心に増えてきている。特に高齢者の場合、1度でも顎関節脱臼を発症させると再発する可能性が極めて高い。そのため、再発防止が重要なのだが、これまでは再発防止のための専用デバイスが存在しなかったため、包帯や歯列矯正用の器具で代用されていた。しかし、それら代用品では、使用に手間どったり顎の先端部を傷つけてしまったりするといった課題があった。

装着型の顎外固定デバイスの開発

上記課題を解決すべく、旭ゴム化工(株)および(株)パルメディカルと共同で、顎関節脱臼の再発防止専用のデバイスを開発した。このデバイスは、患者の頭部に装着して使用するもので、下顎から頭部の形態に合わせた伸縮性の高いゴム（ウエットスーツに使用される素材）を採用することで、顎の固定力を高めて患者の開口を制限させることに成功した。また、デバイスの頭部に伸縮性ネットを採用することで、通気性が高く装着後も外れにくい構造となっている。さらに、着脱が容易なため個人で使うことができ、顎の先端部に触れる箇所に丸みを帯びた形状を採用することで、その先端部を傷つけることも無くなった。

医療機器としての販売

医師の指導の下で安全に使用してもらうよう、「医療機器（クラスⅡ）」（届出番号：13B1X00065000026）に登録されている。また、平成30年度より、旭ゴム化工(株)が製造を行い、(株)パルメディカルが「AGOキャップ」の名称で販売を開始している。



【参考URL】 <http://www.palmedical.co.jp/product/dental/>
(株)パルメディカルのAGOキャップ紹介ページ
<http://www.asahi-online.com/>
旭ゴム化工(株)のホームページ